
編集後記

SDGs(国連持続可能な開発目標)が最近テレビや新聞などマスコミや教育現場でよく取り上げられている。公共放送のNHK以外の民放番組で紹介され、ニュースだけでなくクイズ番組、ワイドショーなどでも取り上げられているのに驚く。2000年代私が複数のNGOの理事として積極的に関わっていたMDGs(国連ミレニアム開発目標)の時発展途上国の社会開発を対象にした8つのゴール(目標)設定で国連、政府、NGOが取り組み、NGOによる「ほっとけない世界のまずしさキャンペーン」でホワイトバンドが日本で400万本売れたが、その時は日本のセレブスターが参加したりしてうわべだけで浸透し、その中身の途上国の貧困の原因については深く知るに人は少なかったかもしれない。何といてもMDGsには日本の企業はほとんど参加せず、関係者以外には他人事のような気がした。それに引き換え、SDGsは17のゴールと169のターゲットに広げ、国連、政府、NGOだけでなく、大学生たちの関心事にもなっている。今のコロナ禍の先の見えない世界や日本で暮らす大学生にとって、SDGsは彼らの活動の「道しるべ」にもなっている場合もある。しかし、SDGsは「現代版大衆のアヘン」であると批判する『人新生の「資本論」』の斎藤幸平や企業によるSDGsへの参加に批判もある。私は約20年前からMDGsの取組に参加し、SDGsが2015年国連総会で成立するまでの国連や政府関係者、それに何といてもNGO関係者たちの努力や戦いの苦勞を知っているので、簡単には批判できないが、日本政府自体がSDGsにどこまで本気で取り組んでいるのかという疑問がある。2016年に発表された「政府によるSDGsを推進するための取組一覧」の7つの取組の中にも保健・長寿、気候変動対策などの問題が入っているが総花的・網羅的で、日本政府が経済成長優先でいかにこれらの問題に真剣に取り組んでこなかったのは今のコロナ感染の拡大や気候変動問題に対する慌てぶりを見るとよくわかる。この後の議論は、誌面の関係で次回に譲ることにしたい。

さて、本号では引き続き、「コロナ・パンデミック時代のグローバル・サウス(4)」を特集し、論文一つ、論潮一つ、時評一つがそれぞれ掲載されている。

最初の松下論文は、グローバル資本主義の現状を批判的に分析し課題を設定し、コロナ後の世界に向けたグローバルな市民的・民主的な世界を構築するための展望を行っている。松下は最初に斎藤幸平の議論を手掛かりにコロナと気候変動が警告する資本主義社会を危惧し、特に「グローバル・サウス」や脱成長・定常型経済的思考から学ぶ点を強調し、次にグローバル化の世界と新自由主義の破壊と放逐などの問題点を過剰蓄積、難民・移民、刑務所複合体、警察国家化の事例を挙げて広い問題点をよく整理して述べおり、説得力があり、力作である。次号では是非「出口戦略」についても触れていただきたい。

次の岡野内論潮は、日本ではあまり知られていないロジャヴァ革命を取り上げ、ロジャヴァ革命を考察する意義、関連する文献を取り上げ解説し、この革命がコロナ・パンデミック時代のグローバル・サウスにとっても重要であることを指摘している。岡野内によれば、ロジャヴァはクルド語でクルディスタンの中で西部を意味する。ロジャヴァ革命は西クルディスタンと呼ばれる地域においてシリア内戦の中から生まれた社会革命で、世界的な民主化運動であり、その一環としてのアラブの春の混迷の中からシリア北部の西クルディスタンで花開き注目を集めているという。しかし日本ではほとんど注目を浴びていない。岡野内が言うように、ロジャヴァ革命が今後日本でも注目を浴びて欲しい。

渡辺時評は、私たちが驚かせた2021年2月1日のミャンマー軍事クーデターについて、現地に滞在しているジャーナリストの立場から寄稿をいただいた。クーデターがなぜ起きたのか、今後の展望はどうなるか、いろいろとわからないことが多い中で、ミャンマーの複雑な歴史と少数民族問題、民主化前後の出来事を振り返りながらわかりやすく明らかにしている。若者を中心にした平和的デモ抗議、特にデジタル世代といわれるZ世代の動きについては現地にいなければわからない動きで注目できる。私もミャンマーに2回ほど滞在した経験からミャンマー市民の無事を祈らざるを得ない。このコロナ・パンデミック時代に私たちにも現地の市民たちのために何ができるかを考える必要がある。

最後に、今回の本誌の編集作業は、福島浩治理事(編集担当)を中心に行ったことを付記する。

(2021年5月3日 編集長 重田康博)

アジア・アフリカ研究

2021年 第61巻 第2号 (通巻440号)

2021年 4月25日発行 機関購読料：年間15,000円

編集人 重 田 康 博

発行人 中 野 洋 一

発行所 特定非営利活動法人
アジア・アフリカ研究所

〒170-0005 東京都豊島区南大塚2-17-10

Tel&Fax: 03 (5972) 4740

E-mail: aaken@bz01.plala.or.jp

URL: <http://www.aaij.or.jp/>

印刷所 三 和 印 刷 (株)
長野県長野市川中島町1822-1

本誌上で各論考の著者がその責任において述べた意見は、特定非営利活動法人 (NPO 法人) アジア・アフリカ研究所としての見解を表わすものではありません。

The articles in *Quarterly Bulletin of Third World Studies* do not represent the views of The NPO Corporation Afro-Asian Institute of Japan (AAIJ). Responsibility for opinions expressed in them rests with their authors.